



商店街見学 (みぞぐち布団店)



アイマスクをして歩く「視覚障害」体験と介助者体験



ふるさとを愛する心を育む

特集
日本一事業

市では平成26年度から、各学校の創意工夫を生かした学校づくりを目指して、「日本一を目指した特色ある教育活動の推進事業（以下：日本一事業）」を行っています。この事業を通じて、市内の小・中学校では独創的なテーマを掲げ、日本一を合言葉に活気あふれる教育活動を展開しています。今号は、その中から三本木小学校と第一中学校の取り組みをご紹介します。



と わだ すぎ のこ こ こ はふる さと

ふるさとの歌を作ろう

日本一事業2年目となった今年度は、1年目に学習したふるさとの良いところを詩にして、その詩に曲を付け、ふるさとの歌を作ることになりました。まず4月から6月にかけて、作詞を行いました。昨年度学習して心に残ったこと、願い事などを一人一文、五・七調または七・五調で考え、用紙に記入していきました。

次に学年ごとに全て掲示して、気に入った文に児童がシールを貼って投票しました。そして、多くシールの付いた何点かの作品をもとに教職員が詩を組み立てました。1番は「現在」、2番は「過去」、3番は「未来」の詩で構成されています。

7月からは、教職員がこの詩にメロディーを付けました。印象に残る一文をサビの部分に生かしてハーモニーを付け、2部合唱にしました。

この歌の名前は「たからもの」。歌詞の中に本市の宝物がたくさん詰まっているからです。お披露目は、10月22日に同校体育館で行われる音楽発表会となりました。学級で全校で歌の練習がいよいよ始まりました。

ふるさと力日本一

三本木小学校

11月14日、三本木小学校（福寿邦彦校長）音楽部の児童たちが市役所を訪れ、同校で作ったふるさとの歌「たからもの」を小山田市長の前で発表しました。

昨年度から日本一事業に取り組み同校は「ふるさと力日本一の学校」を目指しています。この「ふるさとの歌」づくりは、同校の「杉の子学習」の発展学習として行われました。

杉の子学習でふるさと探究

同校では、「杉のように真っすぐに育ってほしい」という願いを込めて、児童を「杉の子」と呼び、同校の総合的な学習を「杉の子学習」と名付けています。

この杉の子学習では、各学年ごとにふるさとを探究する体験活動が行われています。

1学年は、地域の公園散策や昔遊び体験を通してふるさとに触れ、2学年は、農業体験や商店街見学を通して現在の本市を探究します。

3学年は、「十和田市じまん人調べ」や南部裂織体験を通してふるさとの誇りを学び、4学年は、稲生川見学や十和田湖・奥入瀬溪流散策を

通して、ふるさとの歴史と自然を学びます。

5学年は、福祉体験やユニバーサルデザインの学習など、人にやさしいまちを通してふるさとの未来を見つめ、6学年は、「十和田市PR大作戦」と称し、これまで学習してきたふるさとの魅力を発信するパンフレットづくりを行います。

金田睦子教諭は、次のように学習の効果話します。「この学習を通して児童は、ふるさとに関心を持ち、ふるさとを興した先人の思いを受け継ぎ、愛着心と誇りを育むことができます。また、さまざまな体験や人との関わり合いの中で、自己の生き方を見つめることができます」。



昔遊び体験で竹馬を教えられる児童

南部裂織体験で、みんなで織った卓布

～ふるさと力日本一の学校をめざして～

たからもの

一 春を知らせる さくら道
わくわくいっぱい 美術館
ラララ 世界にひとつ さきおりと
光る十和田湖 たからもの

二 秋の風 さわやかに 人(人) えがお
水(水) きよらかに 緑 もゆ
十和田 ふるさと 馬かけるまち

三 季節いろいろ 駒街道
アート広場で 夢語ろう
ラララ 思いやりある この街は
ぬくもりあふれて すてきだよ
風(風) さわやかに 人(人) えがお
水(水) きよらかに 緑 もゆ
十和田 杉の子 こはふるさと
十和田 杉の子 こはふるさと

たからもの
平成28年度十和田市立三本木小学校
作詞 全校児童・職員
作曲 職員